

解体施設を使用し複合訓練を実施



今回の訓練は、邑楽館林農業協同組合様ご協力のもと、解体工事前の施設を存分に活用させていただき、消防隊、救助隊の複合的訓練を実施しました。

- 1 訓練実施日 令和元年9月19日（木）20日（金）
- 2 訓練実施場所 邑楽館林農業協同組合 旧中野支所（邑楽町中野地内）
- 3 訓練実施内容 震災対応救助訓練、施錠扉開放訓練、火災対応訓練



・震災対応救助訓練（ブリーチング）

「ブリーチング」とは、震災現場などで、建物の倒壊により生き埋めになった人を探し出し、救出するための開口部を作成する手法です。助けを求める人が近くにいる場合に、やさしく開口部を設定する手法でコンクリート片等の落下物を最小限にする「クリーンブリーチング」、また対照的に開口部の近くに人がいない場合に、できる限り早く開口部を設定する「ダーティーブリーチング」の2種類があります。



建物2階から、倒壊している1階へアプローチするための、開口部を設定します。
1辺が90cmの三角形を書き、2階へ進入準備開始。



サーチングホールの設定

「サーチングホール」とは、始めにコンクリートに小さな穴を開け、コンクリートの厚さや梁、柱、1階の状況を確認する穴のことです。



エンジンカッター、ハンマードリル等を使用し、効率よく開口部を設定します。コンクリート切断の際に、多量の粉塵が舞うため、防護眼鏡、防塵マスクが必須となります。



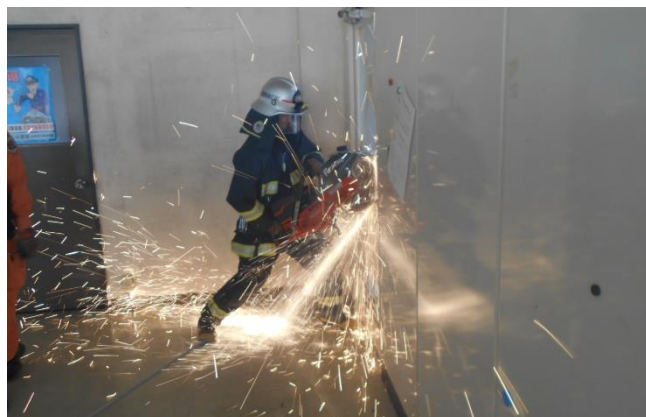
『ブリーチング完了』 ここから隊員の進入、要救助者の救出を行います。

・施錠扉開放訓練

この訓練は、施錠された鉄の扉やシャッターをエンジンカッター等で切り開き、扉を開放する訓練で、いかに早く施錠を解除するかがポイントとなります。

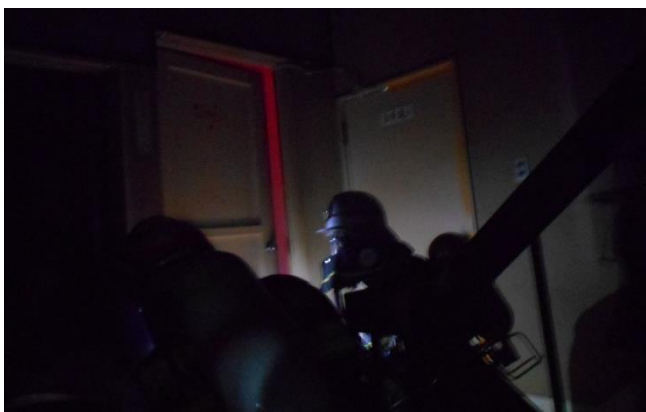


まずは、扉、鍵（デットボルト）の確認を実施し、どのように開放するのが速いのか学んでいきます。



・耐火建物火災想定訓練

1名の逃げ遅れ者がいるという想定のもと、訓練を行いました。煙により視界がない中で、要救助者の検索、救出を行いました。



視界が悪い為、意思の疎通が大切となります。



火元の部屋は、煙が充満しているため、常に低い姿勢と、空気呼吸器が必須となります。



要救助者の救出が完了したら、次は火点（出火場所）の特定と消火を行います。



訓練終了



邑楽館林農業協同組合様、2日間ご協力いただき誠にありがとうございました。意義のある効果的な訓練を実施することができました。

引続きこのような訓練を実施し、若年層職員への技術の伝承や、総合的な消防戦術の向上に努めて参ります。



【作成担当】

館林地区消防組合消防本部 警防課 警防係
〒374-0039 館林市美園町7番3号
電 話：0276-72-3171（代表）